

資源管理型漁業推進総合対策事業

(広域回遊資源：太平洋北ブロック) 調査一抄録一

蛸 名 政 仁・小 泉 広 明・早 川 豊※

発 表 誌 名

平成5年度広域資源管理型漁業推進総合対策事業報告書 平成6年3月青森県（太平洋北ブロック）

抄 録

天然資源調査（対象種 ヒラメ；対象海域 津軽海峡、陸奥湾、太平洋）

1. 資源生物調査

太平洋東部海域におけるヒラメの生物特性調査を行った。耳石を用いた年齢査定の結果、以下の成長式を得た。

$$\text{雄：TL}_t = 619.6 \left(1 - \exp^{-0.348(t+0.815)} \right)$$

$$\text{雌：TL}_t = 98.64 \left(1 - \exp^{-0.173(t+0.732)} \right)$$

当海域におけるヒラメの成長量は、本邦太平洋岸に限れば中南部の海域に比べ劣るが、その理由として冬期間の低水温が強く関係していると考えられた。また、ヒラメ未成魚の成長期間は6～12月であり、その後およそ半年間はほとんど成長しない。

平均成熟年齢は、雄で1.8歳、雌で2.3歳と推定された。

2. 調査船調査

刺網漁業における小型魚の再放流後の生存率を5月から11月までの期間調査した。網揚げ時に取り外した小型魚を生簀に収容して観察した結果、生存率は、5～6時間の観察で約94%であった。

また、同時に実施した標識放流試験では、放流魚は、夏～秋期にかけては放流点付近の沿岸域で再捕される個体が多く、冬季になると沖合で再捕される個体がみられた。

3. 資源診断

平成3年のヒラメの漁獲量から推定した年齢別漁獲尾数・資源尾数を基に資源管理による将来予測を実施した。管理項目としては

- ① 全長制限及び再放流（天然ヒラメ）
- ② 漁獲努力量削減（天然ヒラメ）
- ③ 複合管理（人工種苗放流を加え、①と②の条件を設定。）

の3項目とした。

最も効率的かつ効果的な管理方法は、複合管理を実施した場合で、8年後には漁獲金額で1.65倍になると推定された。

※現在青森県水産増殖センター